

東大野球部

New! メールマガジン

11月26日

Vol.97



降り続く長雨に、日の光が恋しい季節ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

先日の新人戦では、安打数では相手校の立教大学を上回ったものの好機を活かせず、勝ち星をあげる事ができませんでした。ここから気持ちを新たに、秋季リーグでの連敗ストップに向け、一層練習に励んでまいります。

今後とも東大野球部をよろしくお願ひ致します！

今後の日程

〈国立戦〉

6月15日

【1回戦】

① 学芸大 10:00 東工大

② 外語大 13:00 農工大

③ 海洋大 10:00 電通大

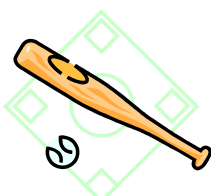
④ 首都大 13:00 東大

22日

【準決勝】

⑤ ①勝者 10:00 ②勝者

⑥ ③勝者 13:00 ④勝者



28日【3位決定戦】⑦ ⑤敗者 10:00 ⑥敗者

【決勝戦】⑧ ⑤勝者 13:00 ⑥勝者

ケガと闘う

今回のメルマガでは「ケガと闘う」と題し、選手4名に故障の際、どうやって乗り越えたかを聞いてみました。

藤原 秀巨(3年・投手・芝)

僕は、高2の春と去年の夏に腰を痛めてしまいました。痛めた部位や深刻度は大きく異なりますが、いずれも身体の使い方が悪かったことが原因だったと思います。また、去年は腰痛となった後も中途半端に痛みを我慢して動き、怪我を長引かせてしまいました。また、どうすれば状態が良くなるかわからずにいました。そんなとき高校の友人に治療院を紹介してもらい、数日間で痛みをなくすことができました。

最近では身体の使い方や疲労に気をつけ「準備」をより重視するようになったので、この怪我はプラスになるはずだと考えています。



袖野 康弘(3年・捕手・学芸大附)

自分は1年時に足首を怪我しました。完治までおよそ半年かかり、思うようにプレーできず挫けそうにもなりました。しかし、東大に入って神宮でプレーするという夢を叶えるためリハビリに努めました。これからも怪我なくプレーできることに感謝して、勝利目指して頑張ります。



高木 一史(3年・外野手・土佐)

自分は2年秋に3カ月程、腰を痛めていました。正式名称は「腰椎分離症」と言い、完治することはないそうです。怪我をした当初はもう二度と野球が出来ないのではないかと思い、真剣に退部を考えました。それでも腐らず頑張れたのは、チームメイトからの励ましがあつたからです。自分に戻ってきてほしいと思っている人がいる、というのは大きな心の支えとなり、怪我を乗り越える原動力になりました。今は、これからも仲間達と共に勝利を目指すことに喜びを感じつつ、日々練習に励んでいます。

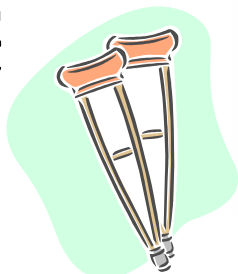


福田 守成(2年・投手・時習館)

自分は高校生の時に肘を痛め、今まで投げることでできていた変化球がすべて曲がらなくなるという経験をしました。握りを変えたことで解決できたのですが、最後の大会が近く、それまですごく不安な日々を過ごしました。その後の練習試合で生まれ変わった変化球で久々に抑えることができ、自然と涙が出たのは忘れられません。

また、大学生になってからも肘を痛めてしまい、投げられない日が続きました。今年のオープン戦で初めて試合で投げることで、試合で投げられるということに大きな幸せを感じたと共に、ケガをしていた時間がすごく惜しいなと思いました。

ケガから学ぶこともありましたが、とにかくケガはしないに越したことはないと思います。これからは、なんとかケガなく野球を続けられるようにしていきたいです。

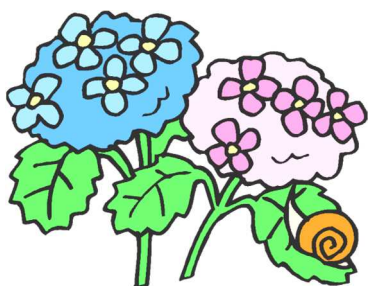


編集後記

今回の特集はいかがでしたか。

選手の野球人生はそれぞれ順風満帆とは言い難いですが、野球ができる喜びや周囲の人への感謝など故障から学んだことも少なくなかったようです。故障に限らず、逆境の中で学べることは多いことと思います。春季リーグ戦では大差で負けることも多く、大変悔しい結果に終わりましたが、この悔しさをバネに秋季リーグ戦に向けての練習に励んでまいります。

今後とも東京大学野球部をどうぞよろしくお願ひ致します。



お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向ヶ丘1-5-9 一誠寮

TEL&FAX 03(3811)5100

メールアドレス office@tokyo-jbc.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望がございましたら上記連絡先までご連絡下さい。

